

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成23年11月14日

【四半期会計期間】 第74期第2四半期(自平成23年7月1日至平成23年9月30日)

【会社名】 田淵電機株式会社

【英訳名】 TABUCHI ELECTRIC CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 貝方士 利 浩

【本店の所在の場所】 大阪市淀川区宮原四丁目2番21号

【電話番号】 06-4807-3500(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 佐々野 雅雄

【最寄りの連絡場所】 大阪市淀川区宮原四丁目2番21号

【電話番号】 06-4807-3500(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 佐々野 雅雄

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)
田淵電機株式会社東京支社
(埼玉県川口市南鳩ヶ谷三丁目23番の7)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第73期 第2四半期 連結累計期間	第74期 第2四半期 連結累計期間	第73期
会計期間	自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高 (百万円)	15,482	14,234	32,921
経常利益又は経常損失 () (百万円)	272	157	212
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失 () (百万円)	370	20	7
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	629	192	246
純資産額 (百万円)	365	1,368	749
総資産額 (百万円)	13,902	13,464	13,515
1株当たり四半期(当期)純 利益金額又は四半期純損失金 額 () (円)	10.53	0.53	0.21
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	2.1	9.6	4.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,487	920	911
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	195	476	423
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,077	92	862
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	1,215	1,657	1,350

回次	第73期 第2四半期 連結会計期間	第74期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額 () (円)	4.92	2.59

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第73期第2四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、第73期及び第74期第2四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 第73期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、平成21年3月期におきまして重要な当期純損失を計上いたしました。前連結会計年度には、営業利益、経常利益、当期純利益とも黒字となりましたが、円高及び株価の下落により純資産は減少いたしました。当第2四半期連結累計期間におきましては、震災の影響はあったものの、営業利益、経常利益、四半期純利益とも黒字となりました。

引き続き厳しい経営環境が見込まれる中、当社グループでは、当該重要事象を解消するため、中期経営計画に基づき、電源機器事業については医療器・産業機器向け等、より高付加価値が見込める分野へリソースをシフトしております。加えて、十数年にわたる住宅向け太陽光発電用パワーコンディショナの国内トップメーカーとしての基盤を生かし、昨今注目を集めているクリーンエネルギーを中心としたエネルギーマネジメントシステム関連分野へ注力してまいります。

具体的には、太陽光発電・風力発電・燃料電池等の各種エネルギー源に対応したハイブリッド・パワーコンディショナや学校・工場等の中規模施設向け中容量タイプの発売を開始いたしました。また、震災後需要が拡大している太陽光発電と蓄電池との「自立型蓄電機能付きパワコン」やアルミニウムリッツ線の接合技術による「ワイヤレス給電システム」等、当社独自技術を駆使した高付加価値商品群の開発に社内資源を集中させ、積極的な市場展開を図っております。

そのために、コスト競争力強化を図るための海外生産展開や生産能力増強に向けた設備投資、及び、研究開発投資などにより事業基盤を強化し、着実に収益体質の改善につなげてまいります。これら設備投資や研究開発投資に充当するため、当第1四半期には、第三者割当による増資を行うなど、収益基盤の強化とともに、財務体質の改善も進めております。

これらの施策を着実に実行することで、当該重要事象を解消できるものと考えております。

なお文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災後の停滞を脱して、後半は回復の途上にありましたものの、円高の長期化や原油価格の高止まり、株価下落などにより、依然として厳しい状況で推移しました。

また、世界経済においても、欧州財政問題の深刻化や米国経済の停滞、新興国の成長鈍化などにより、世界景気の減速懸念が強まっております。

このような経営環境の下、当社グループでは、中期経営計画「MBP15」の初年度として、ますます注目される環境・エネルギー分野へ重点シフトを図り、パワーコンディショナを中心としたパワーエレクトロニクス事業の強化拡大に取り組んでいます。これにより、産業向け太陽光発電用パワーコンディショナやLED照明用電源など、当社独自技術による高付加価値商品を創出すると共に、パワーコンディショナの海外への生産移管を進めるなどコスト力の強化を図りました。また、生産性向上や原価低減活動など、全社を挙げて収益力向上に努めました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、パワーコンディショナの大幅な伸長があったものの、エコポイント制度の終了による薄型テレビ用電源の大幅な減少などにより、売上高は14,234百万円（前年同四半期比8.1%減）となりました。損益につきましては、第1四半期連結会計期間は東日本大震災の間接的影響があったものの、第2四半期連結会計期間は回復し、営業利益は336百万円（前年同四半期は営業利益29百万円）、経常利益は157百万円（前年同四半期は経常損失272百万円）、四半期純利益は20百万円（前年同四半期は四半期純損失370百万円）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

変成器事業

変成器事業は、引き続きエアコン用リアクタ等が順調に推移したため、売上高は4,883百万円（前年同四半期比7.8%増）、営業利益は281百万円（前年同四半期比287.0%増）となりました。

電源機器事業

電源機器事業は、パワーコンディショナの大幅な伸長があったものの、エコポイント制度の終了と地デジ移行による薄型テレビ用電源の大幅な落ち込み、及び市場低迷の影響を受けたアミューズメント用電源の更なる落ち込みにより、売上高は9,351百万円（前年同四半期比14.6%減）となりました。損益につきましては、高付加価値商品へのシフトにより粗利率が改善し、営業利益は60百万円（前年同四半期は営業損失34百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は13,464百万円となり、前連結会計年度末に比べて50百万円減少いたしました。これは、主として、受取手形及び売掛金が607百万円減少し、現金及び預金が307百万円、たな卸資産が122百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

負債は12,095百万円となり、前連結会計年度末に比べて670百万円減少いたしました。これは主として、有利子負債が921百万円減少したこと等によるものであります。

純資産は1,368百万円となり、前連結会計年度末に比べて619百万円増加いたしました。これは主として、第三者割当増資により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ416百万円増加し、為替換算調整勘定が141百万円減少したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は1,657百万円と、前第2四半期連結累計期間末に比べ441百万円の増加、前連結会計年度末に比べ307百万円の増加となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは920百万円の収入(前年同四半期は1,487百万円の支出)となりました。主な内訳は、売上債権の減少が456百万円、仕入債務の増加が226百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは476百万円の支出(前年同四半期は195百万円の支出)となりました。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出355百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは92百万円の支出(前年同四半期は1,077百万円の収入)となりました。主な内訳は、株式の発行による収入が822百万円、短期借入金の純減少額が662百万円、長期借入れによる収入が557百万円、長期借入金の返済による支出が565百万円であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を下記のとおり定めております。

会社の支配に関する基本方針

(A) 基本方針の内容の概要

当社取締役会は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配することを目的として、対象会社の取締役会の賛同を得ずに、一方的に大量の株式買付けを行う行為であっても、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。また、株式会社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。

しかしながら、株式の大量買付け等の中には、企業価値ひいては株主共同の利益に明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が大量買付け行為の内容や条件等について十分検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買付者の提示した条件よりも有利な条件を引き出すために買付者との交渉を必要とするもの等、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものもあり得ます。

当社取締役会は、当社グループの買収を企図した当社取締役会の賛同を得ない当社株式の大量買付け等の行為であっても、これに応じるか否かは、最終的には当社株主の皆様において判断されるべきものであると考えておりますが、上記のような不適切な大量買付け等を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適切ではなく、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれがあると考えており、このような不適切な買収行為が行われる場合には、それに対して相当の対抗措置を発動することも必要と考えております。

(B) 基本方針実現に資する特別な取組みの概要

当社は、「お得意先第一主義」、「品質を誇る製品の生産で社会に奉仕する」の経営理念の下、企業価値ひいては株主共同の利益の向上に努めております。そのための取り組みとして、「SHIFT THE POWER」をテーマに、以下の経営諸施策を積極的に推進し、中長期経営の安定化と企業価値増大を目指してまいります。

太陽光発電用・風力用・燃料電池用等パワーコンディショナを中心としたパワーエレクトロニクス事業へシフトすると共に、大電力・大容量分野にも対応した高付加価値商品群の充実。

中長期にわたる技術優位性を確保する為、設計の現地化と開発効率の向上に取り組み、競争力ある製品を創出し、新興国等成長市場の販売拡大へシフト。

各種ユーザーニーズに対応できる多品種少量生産体制を確立し、一層の生産性向上によるコスト力強化と高信頼性確保。

(C) 不適切な支配の防止のための取組みの概要

当社は、上記(A)の基本方針を実現するための取組みとして、平成23年6月29日開催の第73回定時株主総会において当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）（以下「本プラン」といいます。）を更新することを、株主の皆様にご承認いただきました。

本プランの目的は、当社に対し、株式の買付け等を行う者又は提案する者（以下「買付者等」といいます。）が現れた場合、不適切な買収でないかどうかを株主の皆様が判断する為に必要な情報や時間を確保し、株主の皆様の為に買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する買収を抑止する仕組みを導入することです。

本プランの有効期限は、3年間とし、実際の発動は、買付者等が、持株比率20%以上となると認められる株式買付けを行う場合を対象に、社外者で構成する独立委員会の勧告を受けて、取締役会決議により発動いたします。新株予約権の無償割当てを行う場合には、全ての株主に持株と同数の新株予約権を割り当てますが、買付者等には予約権行使をできない条件を付して、その持株比率を半減させることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を防衛いたします。

本プランの詳細につきましては、当社ホームページ掲載のニュースリリース「会社の支配に関する基本方針及び当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）の更新に関するお知らせ」をご参照ください（<http://www.zbr.co.jp>）。

(D) 不適切な支配の防止のための取組みについての取締役会の判断及びその理由

本プランは、以下の理由により、上記(A)の基本方針に沿うものであり、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

本プランは、株式会社大阪証券取引所における適時開示、当社事業報告等の法定開示書類における開示、当社ホームページ等への掲載等により周知させることにより、当社株式に対する買付けを行う者が遵守すべき手続きがあること、並びに、買付者等の不適切な買付行為による権利行使は認められないとの行使条件及び買付者等以外の者から株式と引換えに新株予約権を当社が取得すると取得条項が付された新株予約権の無償割当て等を、当社が実施することがあり得ることを事前に警告することをもって、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を損なうと判断される買収から防衛することが図られております。

買収防衛策に関する指針の要件を全て充足していること等

本プランは、経済産業省・法務省の2005年5月27日付「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）を全て充足し、さらに、企業価値研究会の2008年6月30日付「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」の内容（買収者に対して金員等の交付を行うべきではない、取締役は責任と規律ある行動をとる等）に沿うものであります。

また、大阪証券取引所の企業行動規範に関する規則第11条買収防衛策の導入に係る遵守事項（開示の十分性、透明性、流通市場への影響、株主の権利の尊重）にも合致するものであります。

株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されていること

本プランは、当社株式に対する買付け等がなされた際に、当該買付け等に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や期間を確保し、株主の皆様のために買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって導入されるものであります。

株主意思を重視するものであること

本プランは、平成23年6月29日開催の第73回定時株主総会において更新が決議されたものであります。また、本プランの有効期間は、平成26年開催予定の第76回定時株主総会終結の時までとなり、いわゆるサンセット条項付であります。さらに、その有効期間の満了前であっても、当社株主総会において、本プランの廃止又は変更の決議がなされた場合には、本プランも当該決議に従い廃止又は変更されることとなります。以上の意味において、本プランの廃止及び変更は、当社株主総会の意思に基づくこととなっております。

独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

当社は、本プランの施行・運用にあたり、当社取締役会の恣意的判断を排除し、株主の皆様のために企業価値ひいては株主共同の利益を客観的に判断し、取締役会に勧告する諮問機関として独立委員会を設置しております。

独立委員会は、当社の業務執行を行う経営陣から独立している、社外有識者、当社社外監査役又は当社社外取締役の中から選任される委員3名以上により構成されております。

また、当社は本プランの運用に際して、適用される法令又は金融商品取引所規則に従い、本プランの各手続きの進捗状況、又は独立委員会による勧告等の概要、当社取締役会の決議の概要、その他当社取締役会が適切と考える事項について適時に情報開示を行うこととし、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資する範囲で本プランの透明な運営が行われる仕組みを確保しております。

合理的な客観的発動要件の設定

本プランは、予め定められた合理的客観的発動要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しております。

第三者専門家の意見の取得

当社取締役会及び独立委員会は、各々独立した第三者（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含みます。）の助言を得ることができることにより、判断の公正さ・客観性がより強く担保された仕組みとなっております。

デッドハンド型若しくはスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、当社の株主総会で導入・廃止を決議することから、いわゆるデッドハンド型買収防衛策(取締役会の構成員の過半数を交代させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策)ではありません。

また、当社は、取締役任期を1年とし、毎年、定時株主総会で取締役の全員を選任する制度を採用しており、いわゆる期差任期制を採用していないため、本プランはいわゆるスローハンド型(取締役会の構成の交代を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策)でもありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費の総額は318百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 従業員数

連結会社の状況

当第2四半期連結累計期間において、当社グループは民生用電源の大幅な減少などに伴い、電源機器事業の従業員数が375名減少し977名となり、また変成器事業の従業員数が667名減少し3,028名となっております。

なお、従業員数は就業人員数であります。

(7) 継続企業の前提に関する重要事象等について

当社グループは、平成21年3月期におきまして重要な当期純損失を計上いたしました。前連結会計年度には、営業利益、経常利益、当期純利益とも黒字となりましたが、円高及び株価の下落により純資産は減少いたしました。当第2四半期連結累計期間におきましては、震災の影響はあったものの、営業利益、経常利益、四半期純利益とも黒字となりました。

引き続き厳しい経営環境が見込まれる中、当社グループでは、当該重要事象を解消するため、中期経営計画に基づき、電源機器事業については医療器・産業機器向け等、より高付加価値が見込める分野へリソースをシフトしております。加えて、十数年にわたる住宅向け太陽光発電用パワーコンディショナの国内トップメーカーとしての基盤を生かし、昨今注目を集めているクリーンエネルギーを中心としたエネルギーマネジメントシステム関連分野へ注力してまいります。

具体的には、太陽光発電・風力発電・燃料電池等の各種エネルギー源に対応したハイブリッド・パワーコンディショナや学校・工場等の中規模施設向け中容量タイプの発売を開始いたしました。また、震災後需要が拡大している太陽光発電と蓄電池との「自立型蓄電機能付きパワコン」やアルミニウムリッツ線の接合技術による「ワイヤレス給電システム」等、当社独自技術を駆使した高付加価値商品群の開発に社内資源を集中させ、積極的な市場展開を図っております。

そのために、コスト競争力強化を図るための海外生産展開や生産能力増強に向けた設備投資、及び、研究開発投資などにより事業基盤を強化し、着実に収益体質の改善につなげてまいります。これら設備投資や研究開発投資に充当するため、当第1四半期には、第三者割当による増資を行うなど、収益基盤の強化とともに、財務体質の改善も進めております。

これらの施策を着実に実行することで、当該重要事象を解消できるものと考えております。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	40,502,649	40,502,649	大阪証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株 であります
計	40,502,649	40,502,649	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年9月30日	-	40,502,649	-	3,611	-	416

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
T D K株式会社	東京都中央区日本橋1-13-1	8,000	19.75
田淵暉久	兵庫県芦屋市	2,133	5.27
美登里株式会社	兵庫県芦屋市六麓荘町12-22	1,844	4.56
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	東京都中央区日本橋1-4-1	1,700	4.20
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1-1-5	1,620	4.00
大阪証券金融株式会社	大阪市中央区北浜2-4-6	1,165	2.88
株式会社銭高組	大阪市西区西本町2-2-11	900	2.22
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6	737	1.82
シャープ株式会社	大阪市阿倍野区長池町22-22	653	1.61
ミヨシ電子株式会社	広島県三次市東酒屋町306	635	1.57
計		19,389	47.87

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 67,000	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 40,301,000	40,301	同上
単元未満株式	普通株式 134,649	-	同上
発行済株式総数	40,502,649	-	-
総株主の議決権	-	40,301	-

(注) 単元未満株式数には当社所有の自己株式315株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) 田淵電機株式会社	大阪市淀川区宮原四丁目 2番21号	67,000	-	67,000	0.17
計	-	67,000	-	67,000	0.17

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,350	1,657
受取手形及び売掛金	4,315	3,708
商品及び製品	1,043	1,060
仕掛品	397	518
原材料及び貯蔵品	2,141	2,125
繰延税金資産	10	14
その他	361	437
貸倒引当金	1	0
流動資産合計	9,619	9,522
固定資産		
有形固定資産	2,221	2,275
無形固定資産		
のれん	6	-
その他	122	146
無形固定資産合計	128	146
投資その他の資産		
投資有価証券	1,219	1,195
その他	317	309
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	1,535	1,503
固定資産合計	3,885	3,926
繰延資産	10	15
資産合計	13,515	13,464

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,804	5,844
短期借入金	1,879	1,139
1年内返済予定の長期借入金	880	888
1年内償還予定の社債	260	260
リース債務	192	178
未払法人税等	43	61
賞与引当金	102	189
その他	546	630
流動負債合計	9,709	9,191
固定負債		
社債	540	410
長期借入金	1,442	1,422
リース債務	317	292
退職給付引当金	558	590
その他	197	189
固定負債合計	3,056	2,904
負債合計	12,765	12,095
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,195	3,611
資本剰余金	-	416
利益剰余金	1,255	1,235
自己株式	12	12
株主資本合計	1,928	2,780
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	273	330
繰延ヘッジ損益	15	32
為替換算調整勘定	983	1,125
その他の包括利益累計額合計	1,273	1,488
少数株主持分	94	77
純資産合計	749	1,368
負債純資産合計	13,515	13,464

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	15,482	14,234
売上原価	14,156	12,798
売上総利益	1,325	1,436
販売費及び一般管理費	1,296	1,099
営業利益	29	336
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	5	4
持分法による投資利益	8	10
デリバティブ利益	-	40
その他	8	11
営業外収益合計	23	68
営業外費用		
支払利息	75	85
為替差損	186	105
デリバティブ損失	5	-
その他	58	56
営業外費用合計	325	247
経常利益又は経常損失()	272	157
特別損失		
固定資産除売却損	9	1
投資有価証券評価損	-	22
退職給付制度移行損失	-	18
特別損失合計	9	42
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	281	114
法人税、住民税及び事業税	68	96
法人税等調整額	9	14
法人税等合計	77	81
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	359	32
少数株主利益	11	12
四半期純利益又は四半期純損失()	370	20

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	359	32
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	167	56
繰延ヘッジ損益	-	17
為替換算調整勘定	49	87
持分法適用会社に対する持分相当額	52	63
その他の包括利益合計	270	225
四半期包括利益	629	192
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	637	195
少数株主に係る四半期包括利益	8	2

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	281	114
減価償却費	267	223
のれん償却額	6	6
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	1
退職給付引当金の増減額(は減少)	7	38
受取利息及び受取配当金	6	6
支払利息	75	85
投資有価証券評価損益(は益)	-	22
持分法による投資損益(は益)	8	10
有形固定資産除売却損益(は益)	9	1
売上債権の増減額(は増加)	224	456
たな卸資産の増減額(は増加)	1,138	315
仕入債務の増減額(は減少)	38	226
その他	71	232
小計	1,276	1,074
利息及び配当金の受取額	6	6
利息の支払額	75	85
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	142	74
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,487	920
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	189	355
有形固定資産の売却による収入	0	2
投資有価証券の取得による支出	-	109
その他	6	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	195	476
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,201	662
長期借入れによる収入	600	557
長期借入金の返済による支出	457	565
社債の償還による支出	130	130
株式の発行による収入	-	822
ファイナンス・リース債務の返済による支出	88	94
少数株主への配当金の支払額	47	19
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,077	92
現金及び現金同等物に係る換算差額	31	44
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	636	307
現金及び現金同等物の期首残高	1,852	1,350
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,215	1,657

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	
会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用	
<p>第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。</p>	
退職給付引当金	
<p>当社の退職給付制度は、適格退職年金制度を採用していましたが、平成23年7月1日から確定拠出年金制度及び退職一時金制度へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)を適用しております。</p> <p>本移行により、当第2四半期連結累計期間の特別損失として、18百万円を計上しております。</p>	

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
荷造・運送費	448百万円	215百万円
役員報酬・給与手当	424百万円	426百万円
賞与引当金繰入額	17百万円	36百万円
退職給付引当金繰入額	26百万円	18百万円
減価償却費	23百万円	22百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
現金及び預金勘定	1,215百万円	1,657百万円
現金及び現金同等物	1,215百万円	1,657百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成23年6月21日付で、TDK株式会社、株式会社銭高組、株式会社みずほ銀行、大阪瓦斯株式会社及びミヨシ電子株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金が416百万円、資本準備金が416百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が3,611百万円、資本剰余金が416百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 連結損益計算書 計上額(注2)
	変成器事業	電源機器事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,530	10,952	15,482	-	15,482
セグメント間の内部売上高 又は振替高	855	-	855	855	-
計	5,385	10,952	16,338	855	15,482
セグメント利益又は損失()	72	34	37	8	29

(注) 1. セグメント利益の調整額 8百万円には、のれん償却額 6百万円等が含まれております。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 連結損益計算書 計上額(注2)
	変成器事業	電源機器事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,883	9,351	14,234	-	14,234
セグメント間の内部売上高 又は振替高	778	-	778	778	-
計	5,661	9,351	15,013	778	14,234
セグメント利益	281	60	341	5	336

(注) 1. セグメント利益の調整額 5百万円には、のれん償却額 6百万円等が含まれております。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	10円53銭	0円53銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(百万円)	370	20
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()(百万円)	370	20
普通株式の期中平均株式数(千株)	35,237	38,134

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第2四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、当第2四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月10日

田淵電機株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山田美樹 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高崎充弘 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている田淵電機株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、田淵電機株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。